

かわにし

広報かわにし

No.524

平成14年4月10日

いらっしやいませ!
「千年の市」へ



特集 地域ビジネスが生まれる...2

町長施政方針「今年が目玉事業はこれだ!」...6

真剣に考えよう合併について...14

人口の動き

— 4月1日現在 —

男 4,055 (－14)

女 4,151 (－28)

計 8,206 (－42)

世帯数 2,287 (－6)

() は前月比較

特集

地域ビジネスが生まれる 〈2〉

千手温泉・千年の湯がオープンして四か月が過ぎました。温泉には、毎日多くの人が訪れ、満員御礼の状況が続いています。

こうした状況をとらえて、「訪れた人たちが気軽に立ち寄って食事や買い物を楽しめ、地域の生の情報を得ることができるような空間を創ろう」という「実験的商業」の動きもスタートしました。その内容を紹介します。

まず、商業者の卵から

賑わい空間創出事業は、昨年十一月にオープンした千手温泉・千年の湯を核として、健康増進施設、生涯学習施設、商業エリアなどが有機的に結びついて新しい賑わいの場を創っていかうとするものです。

このうち商業エリアは、施設や環境整備よりも、「こういう商売をやっていかう」という個人や団体の「思いと行動」がとりわけ重要になります。

そのため、(株)まちづくり川西を中心に、町、商工会、JA、共同店舗準備会等が協力しあつて、商業エリアへの出店を考えるための事前事業の検討が続けられてきました。そして、市の要素を持った「実験的商業」の場を設け、消費者ニーズの把握

や、地域ビジネスに取り組む新たな商業者の育成を目指すことになりました。

二月二十五日、商工会館で、その実験的商業への参加希望者や関係者が集まって、打ち合わせが行われました。



打ち合わせ会議では様々な話題が具体的に話し合われます

ここでは、実験的商業を展開する場所や期間、事業展開に伴う協定・出店契約等の検討や、出店者組合の代表者等の選出が行われました。その結果、場所は千年の湯に隣接する民地を借りる部分と千年の湯の敷地の一部、期間は、平成十四年四月から平成十六年九月までとすることになりました。

また、出店者組合の代表者に小林英男さん(小林米穀店)が選出されました。

そして、常設出店と季節出店、土日祝祭日及びイベント開催時出店等、いくつかのパターンで出店することになりました。

こうした取り組みは、コミュニティビジネスなど地域の自主的



「こうしたらどうだろう」みんな身を乗り出して考えます



店舗の配置もカード化した平面図を動かしながら決めました

活動の中ではよく見られることで、まず事業を立ち上げて、いろんなパターンを試しながらよりよい方向に持っていこうとするものです。

これは、「歩きながら考える商売」ともいえるべきもので、一攫千金をねらうのではなく、「ローリスク・ローリターン」ながら地域の実情にあった、地域の中でまわる経済を生み出していく仕組みとして、全国各地で展開され始めています。

千年続く市に!

三月十九日、千年の湯に出店予定者、関係者が集まって、出店位置や規模、取り扱い商品の確認、実験的商業の名称決定などが行われました。

各店舗の位置は、常設出店が借地の部分、季節出店と休日・イベント時等出店が千年の湯敷地内で行うこととなりました。

また、「店を出さんに、『実験的商業』という名前じゃ、どうも力が出ねな」ということで、新しい名称をつけることになりました。そして、いくつかの案の中から「千年の市」と命名されました。これには、「千年も続くような賑わいの場にしよう!」という思いが込められて



「千年の市」と命名されると拍手が沸き上がりました

います。

地元の力を 見てください！

出店者を各部門ごとに紹介
します。

(①業種名、②主な内容、③店
舗のイメージ、④これがウリで
す)

●常設出店部門(通年)

石沢 実さん(田中町)



「あったかい雰囲気
をつくりたい」とい
う石沢実さん

①飲食業

②そば・うどん等

③木造風の落ちついた雰囲気
の店にします。

④地元(小千谷)産のそば粉で
打った自慢のそばです。あつ
たかいのもあります。

小林英男さん(小林米穀店)



「発想を変えてやっ
てみよう」と呼びか
ける小林英男さん

①小売業

②山菜おこわ、笹団子等

③市場風の店です。

④「今日作ったもの」で勝負し
ます。

羽鳥 清さん(株松葉荘)



「お客さんと生のや
とりとりがしたい」と
語る羽鳥清さん

①飲食業

②たこ焼き、イベントや観光情
報の提供

③ファーストフード店のイメー
ジです。

④画期的な自動たこ焼き機を導
入します。「生の情報」を提
供します。

蔵品 守さん(望憩人)



「地元のいいもの」と
メインにしたいとい
う蔵品守さん

①飲食業

②ラーメン、焼き肉等

③プレハブに見えないような店
に仕上げます。

④地元(川西町)産のハープ豚
を使います。骨まで「純生」
です。

●季節出店部門(四月～九月)

ふれあい女性部さん(JA女性
部・生活改善グループ)



「町の女性が元気になるような場
所にしたい」というふれあい女性
部のみなさん

①小売業

②自家栽培野菜、リサイクル品
等

③温泉帰りに気楽に立ち寄れる
店です。

④新鮮な「朝どり野菜」を提供
します。

●休日・イベント出店部門(土
日祝祭日及び温泉イベント時)

渡貫文人さん(清水フードだ
いも店)



「川西町には特産品になり
うるものがまだまだありま
す」という渡貫文人さん

①小売業

②野菜・花の苗、手づくり子供
服等

③夜の雰囲気を出したいと思
います。

④川西の「隠れた特産品」を発
掘・提供します。

北村力世さん(株くりや商店)



「いろんなことを試
したい」という北村
力世さん

①小売業

②野菜、果物、一般食品等

③にぎやかな店にしたいです。

④地元の力を見てください！

営業時間は、午前十時から午
後十時の間で、出店者によつて
異なります。オープンは、四月
二十一日(日)を目指して準備
中です。(詳しくは、株まちづ
くり川西発行のチラシをご覧ください)

みんなで育てよう！

今回出店するみなさんは、賑
わい空間の商業エリア内に出品
する前段として、消費者ニーズ
の把握や様々な情報交換をする
ためにこの事業に取り組んでい
ます。結果は、商業エリア整備
の進み方も含めて、後になって
みないとわかりません。

しかし、「一歩踏み出してみ
よう」「いいまちをつくらう」
という思いは、出店者であるか
利用者であるかに関わりなく、
みんなが共通に持っているもの

でしょう。

出店組合の組合長である小林
英男さんは「商売が大変な時代
になっていますが、逆転の発想
も大事だと思います。十日町の
大型店とこの辺りは車で五分の
距離です。そこのお客さんから
こちらへ出向いてもらうくらい
のことをしたいと思っています。賑わ
いの起爆剤になりたいですね」と、
「千年の市」にかける思い
を語ってくれました。

地域ビジネスが生まれ、発展
し、賑わいの場が広がっていく
ためには、地域全体が参加し、
育てていく姿勢が重要だといわ
れています。

そのことが、私たち一人ひと
りに問われています。



「市」には「賑わい」「ときめき」の要素があります

平成14年度の 一般会計予算を読む

平成十四年度予算が決まりました。

一般会計の予算規模は五〇億三、四〇〇万円、前年度対比一、〇〇〇万円、〇・二％の減となっています。

歳入では、町税、地方交付税については、長引く景気低迷や制度改正などによりいずれも二％程度減少しています。国庫支出金は千手保育園大規模改造事業やまちづくり総合支援事業などの新規国庫補助事業への取り組みにより一一・五％と大幅な増、県支出金は中山間地域総合整備事業を縮減したため九・二％の減となっています。また、温泉施設の完成や中山間地域総合整備事業などに続く大規模事業の手控えにより、町債発行額は過去十年で最も少額に抑えられています。

次に歳出ですが、性質別に見ると、普通建設事業費は、賑わい空間温泉施設の建設完了や中山間地域総合整備事業が最終年になったことによる事業減少により一三・五％減、公債費は、平成十年度のスポーツパレス建

設やみのり団地の住宅建設などの財源となった起債（町の借金）の元金償還が始まるため八・一％増、繰入金は、下水道事業及び介護保険特別会計への繰出しが増加したことにより九・一％の増、などが主なものです。

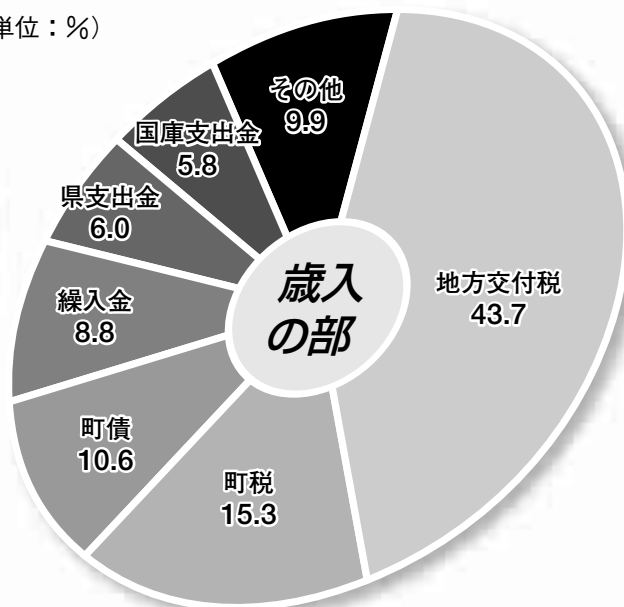
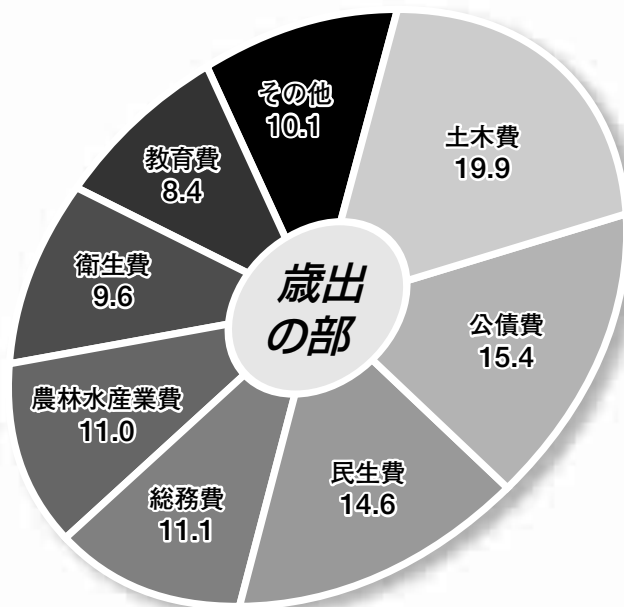
公債費（起債の償還金）が歳出を圧迫していくなかで、賑わい空間創出事業など大きなプロジェクトが進行している間は、他の普通建設事業、特に集落内の生活道路の整備などが後年度に送られる傾向にあります。十四年度にはこうした現状を少しでも改善するため、基金の繰入れにより事業費を確保するなど、予算にメリハリが付いたものになっています。

一般会計と六つの特別会計の合計予算額は七九億三、一九〇万円で、前年度当初予算に比べ七、六六〇万円、一・〇％の増となっています。

なお、各事業の概要については、六ページからの「今年度の目玉事業はこれだ！」をご覧ください。

平成14年度一般会計予算〈50億3,400万円〉の内訳

（単位：％）



〈歳出〉「その他」の内訳

消防費	3.7
商工費	3.1
議会費	1.6
災害復旧費	0.9
労働費	0.5
予備費	0.3
諸支出金	0.0



多方面からの議論を経たうえで予算は成立します

〈歳入〉「その他」の内訳

諸収入	2.1
使用料および手数料	1.4
地方消費税交付金	1.3
分担金および負担金	1.3
地方譲与税	1.3
繰越金	1.0
自動車取得交付金	0.6
地方特例交付金	0.4
財産収入	0.3
利子割交付金	0.2
交通安全対策特別交付金	0.0
寄附金	0.0

川西町平成14年度予算 主要な施策

このまちで輝いて生きる！

区 分	●印：新世紀かわにし創造事業（特別枠事業：事業費合計7,451万円） ○印：その他の主要事業	予 算 額 (単位：万円)
1 夢を育む 人づくり	●新規：いきいきホリデイエンジョイ事業（学習・スポーツ体験活動） ●新規：特色ある学校づくり運動事業 ●情報通信技術講習事業（IT普及のための初級・中級講習の実施） ○新規：地域ジュニアスポーツクラブ育成事業（競技スポーツのジュニア層育成・強化） ○新規：学習意欲向上事業（町内一斉学力検査の実施）	351 389 348 370 69
2 健康で安 心して暮 らせる地 域づくり	●子育て支援事業（子育てグループの活動補助等） ●新規：乳幼児こころの栄養づくり事業（絵本の読み聞かせや貸し出し） ●介護予防事業（家族介護教室や転倒骨折予防教室の開催） ○健康増進施設整備事業（健康プール基本・実施設計、敷地関連工事） ○水中運動教室 ○新規：千手保育園大規模改造事業	65 20 84 6,448 419 1億2,210
3 働く喜び にあふれ る産業づ くり	●新規：地産地消支援事業（交流、普及宣伝、特産品開発等を支援） ●認定農業者、生産組織IT化支援事業（情報通信機器の導入を支援） ●緊急地域雇用創出特別基金事業（緊急かつ臨時的な雇用・就業機会の創出） ○仙田地域総合整備事業（つり橋、東屋、散策道、植栽等整備） ○水田営農活性化対策（生産調整）費 ○中山間地域直接支払交付金	100 120 964 1億3,096 4,417 2,205
4 快適で美 しい環境 づくり	●新規：エコタウン推進事業（環境先進町をめざして） ① 環境基本計画策定事業 ② 生ごみリサイクル普及啓発事業 ③ 食品リサイクル総合対策推進事業 ●新規：地域新エネルギービジョン策定事業（新しいエネルギー源の調査） ○生活関連道路整備事業（道路改良、舗装等） ○克雪対策事業（除雪機械の更新、流雪溝及び流末河川整備等）	3,487 1,052 2億1,857 5,006
5 楽しさ広 がるふる さとづく り	●まちづくり活動支援事業（住民の自立的な活動を支援） ●新規：ネットステージ全国かわにし交流事業（奈良県川西町の劇団公演） ○賑わい空間整備事業（商業施設エリア、道路・消雪施設整備） ○新規：中心市街地活性化事業（「実験的商業」の展開）	250 221 2億6,579 532
6 開かれた 自主的行 政の推進	○市町村合併問題の検討（住民検討委員会の設置、資料収集・調査等） ○行政の情報化推進（住民基本台帳の全国ネット化等）	129 1,301

《新世紀かわにし創造事業》

21世紀のスタートに当り、予算の特別枠を設け、時代を切り拓く先導的な事業や重要な行政課題に果敢にチャレンジしていくためのもの。

事業期間：平成13～15年度 **事業規模：**3年間で1億5千万円 **対象事業：**住民主体のまちづくりに関する事業（環境対策事業、起業や地域の活性化を促す事業、新たな時代を担う人づくり事業、時代の潮流を捉えた事業等）

★後日、平成14年度予算をわかりやすく説明した「まちの予算書」を全戸配布します。是非ご覧ください。

町長施政方針

今年の日玉事業はこれだ！



議会で施政方針を述べる田口町長

川西町議会第一回定例会において、平成十四年度の予算や各事業の審議が行われ、議決されました。その概要を、田口町長の施政方針演説から抜粋して紹介します。

課題が多いときこそチャンス

二十一世紀の幕開けとなった十三年度は、九月にアメリカ合

衆国で同時多発テロ事件が発生し、新世紀に託した世界中の人々の希望が打ち砕かれてしまいました。日本経済も、このテロ事件以降加速度的に経済指標が悪化し、深刻な不況に陥っていくなどの暗い話題が多い中であって、十二月には皇太子殿下並びに雅子妃殿下との間に敬宮愛子内親王殿下がご誕生されましたことは、唯一の明るいニュースでありました。

新年度こそ明るく希望のもてる年となるよう念じているところであります。

私が町長に就任してから、早いもので間もなく四年目を迎えるようしております。この間一貫して「住民主体のまちづくり」を基本姿勢とし、町民の目線に立つて行政を執行してまいりました。行政参画への住民意識の高まりに比べ、委員の一部公募や、ワークショップなどを通して住民との対話を続けながら、地域最大の社会的資源である「農」を基軸として、農業や農村社会、農村環境を活用した、川西町ならではのまちづくりに心掛けてきました。

川西町が将来進むべき方向は、地域住民の視点に立ち、町民のみなさんと一緒になって見極めてまいりたいと念じております。合併問題をはじめとして、

新しいまちづくりには難題が山積しております。こうした課題の多いときこそ、逆に次の発展の礎を築く絶好のチャンスと捉えて、なにごとにも怯まずに挑戦していくべきであると考えております。

このため、「住民主体のまちづくり事業」、「環境対策事業」、「起業や地域の活性化を促す事業」、「新たな時代を担う人づくり事業」を重点として、力強く実行していきたいと考えております。

米百俵の精神に学ぼう (夢を育む人づくり)

私は常々、「まちづくり」は「人づくり」であると申し上げてまいりました。豊かな個性と創造性にあふれ、さまざまな可能性に果敢に挑戦していく「人」を育てることが極めて重要となります。昨年は小泉政権誕生の際、「米百俵の精神」が紹介され全国から注目されましたが、まさに「人づくり」の原点はここにあるわけで、二十一世紀百年をかけての「人づくり」が始まったところであります。



「地域の宝発見」に子供たちは目を輝かせます
(橘小学校の節黒城探検)

新世紀創造事業として取り組む三つの人づくり事業についてご説明をいたします。

最初に、いきいきホリデー

ンジョイ事業であります。これは、土曜日を休業日とする学校週五日制が十四年度から完全実施されることに伴い、週末を利用してさまざまな学習やスポーツ体験活動の機会を提供するものであります。豊かな学習やスポーツ活動の体験を通して「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域が連携して環境づくりをするものであります。

次に、特色ある学校づくり運動事業であります。平成十四年度から義務教育課程に「総合的な学習」が新設されます。これは、地域や学校、子どもたちの

実態に即して、各学校が創意工夫をしながら特色ある教育活動を展開するもので、二十一世紀を生き抜く児童生徒に必要な資質や能力を育成することを目的として実施されます。子どもたちのこうした活動を支援してまいります。

続いて、情報通信技術講習事業であります。これは、昨年から開設したインターネットの基礎技能講習を継続して行うものであります。大勢の町民のみなさんから積極的に参加していただきたいと願う次第であります。

そのほかの主要な事業では、平成二十一年に開催予定の地元新潟国体の成績向上に向け、新規に地域ジュニアスポーツクラブ育成事業に取り組んでまいります。

また、町単独の新規事業として、学習意欲向上事業を実施いたします。これは、小学校二年生から中学校三年生までの全児童・生徒を対象とした学力検査を通して、全国基準に照らした相対的な学力水準を把握し、効果的な指導対策を講じるものであります。子どもに順番をつけたり、差別化を目的とするものではなく、あくまでも地域全体の教育レベル向上を目的として実施するものであります。

町が誇る財産一、〇〇〇人 (健康で安心して暮らせる 地域づくり)



子育てにいろいろな人たちの力が集まります(子育てネットワーク「ひろば」の皆さんによる子育て教室の運営)

動への補助と、公民館家庭教育講座を充実してまいります。さらに、子育てグループのみなさんのご協力をいただきながら、幼児期の親子を対象とした子育て教室の充実を図ってまいります。

また、新規に「乳幼児こころの栄養づくり事業」を実施いたします。町では、絵本をプレゼントするだけではなく、乳幼児健診の際に絵本の効能や読み聞かせの方法を指導し、希望する方に絵本を貸し出すことにいたしました。本の内容はよく分からなくても、母親のたくさんの言葉掛けが子どもの心の成長を促すといわれております。

さらに、千手保育園大規模改築事業を実施いたします。増改築工事を実施して、平成十五年四月一日に南原保育園を統合する計画です。

続いて、高齢者対策についてご説明いたします。

本年二月一日現在の高齢化率は二七・九%、前年対比で〇・四ポイントの増となり、高齢社会が一層進展しております。高齢者の福祉については、十二年

度に介護保険がスタートして、家族だけでなく社会全体で支え合うという仕組みができました。

平成十四年度は、在宅介護を支援するための家族介護教室や、寝たきりを防ぐための転倒骨折予防教室の開催、インフルエンザ予防接種など多方面から補完してまいります。

また、寝たきりにならない健康づくり事業として、五年前から取り組んでいる水中運動教室を引き続き展開しながら、本格的な施設整備に着手いたします。十四年度は健康増進施設建設の基本設計及び実施設計を行います。十六年のオープンをめざして取り組んでまいります。

取り組みます 環境保全型農業 (働く喜びにあふ れる産業づくり)

最初に、地産地消支援事業であります。これは、現在取り組んでいる自然薯や山菜なども含めた地場農産物の生産と地域内消費拡大を支

援していくものであります。生産者と消費者の双方が、お互いに「顔の見える関係」の中で日銭を稼げる仕組みをつくり、農村であるが故の豊かさを実感し、参画していくことで、川西町がもっている価値を再認識していただけるものと思っております。

次に、認定農業者、生産組織IT化支援事業であります。認定農業者や生産組織が、パソコンやその周辺機器を購入する場合に支援するもので、二年目となるものであります。経営管理の近代化を図り、顧客の獲得や有利販売などのチャンスとし



地域の実情に合わせた農業のあり方が問われています

て、この支援制度も大いに活用していただきたいと思います。
続いて、緊急地域雇用創出特別基金事業であります。

戦後最悪の失業率を更新している深刻な不況と、国・県の構造改革に伴う公共事業費削減という大変厳しい情勢の中で、臨時的受け皿といたしまして、国からの交付金により県が創設した「緊急地域雇用創出特別基金」を活用して、緊急かつ臨時的な雇用・就業の機会を創出します。具体的には、学校の教員補助者を採用したり、公共施設の管理の一部を民間に委託するなど新たな雇用の創出を図るものであります。

町の基幹産業としての農業は、担い手の減少や過疎化・高齢化による地域活力・生産力の低下など、厳しい状況ではありますが、環境保全型農業への取り組みや、昨年完成した雪室を最大限に活用し、付加価値をつけた新しい農業に取り組んでまいります。

具体的に東部地区は、地域農業の担い手を明確にし、農地の集積促進と経営効率の向上を目指した取り組みを継続して展開してまいります。

一方、西部地区においては、事業最終年を迎える中山間地域総合整備事業及び三年目に入る



生ごみリサイクルの輪は確実に大きくなっています

〇〇世帯ほどに拡大しながら、全町への普及啓発に向けて取り組みでまいります。

私は、循環型社会の構築に向けて、環境保全型農業の推進や教育、福祉などあらゆる分野で、環境を前面に打ち出したまちづくりを果敢に進めたいと考え、この事業を立ち上げました。生ごみリサイ

中山間地域等直接支払制度を基盤として様々な活動を一層推進させ、営農体制の確立を図ってまいります。

環境先進町「かわにし」へ (快適で美しい環境づくり)

ここでは新世紀創造事業として、エコタウン推進事業を取り上げました。

二十一世紀は「環境と命の世紀」とあるといわれています。

川西町では今、こうした時代要請を先取りするかのようにより、まちづくり塾「川西結」から生まれた町民有志による生ごみリサイクル活動が活発に展開されています。十四年度は対象を五

クル普及啓発事業を中心として、環境基本計画の策定、リサイクル施設建設に向けた整備計画の策定など、環境先進町「かわにし」を目指した取り組みを進めてまいります。この活動に関わっていただいている多くの住民のみなさんに敬意を表しますとともに、今後も引き続きご協力をお願いするものであります。

もう一つ、これに加えて地域新エネルギービジョン策定事業に取り組んでまいります。

地球温暖化に伴う国際的な二酸化炭素排出抑制の動きの中で、地球環境問題への積極的な対応は地球人としての使命であり、「快適で美しい」環境を守っていくことは川西町民として

の責務であると考え、この事業に取り組むことにいたしました。

この事業は、小規模ダム発電や雪室の活用など、水や雪、温泉熱といった地域に内在するエネルギー源を対象として、化石燃料だけに頼らない新たなエネルギービジョンを策定するものであります。

このほかの主な事業でありませんが、住民生活に密着した社会資本の整備に重点的に取り組んでまいります。改良・舗装五路線、舗装一路線、測量設計二路線、維持補修一八路線のほか、流雪溝の整備などを予定しております。景気対策の一助となればとの期待もあります。

また、広域事業として「地球環境米フォーラム事業」に取り組んでまいります。

在日外交官が一堂に会し、環境保全に果たす水田の役割や、先人が守り育ててきた稲作文化を見つめ直す事業で、越後妻有地方を世界に発信する機会ともなるものであります。川西町は、五月に開催される「田植えフェスティバル」の昼食交流会の会場となる予定です。

奈良県川西町の 「町民劇団」が出張公演 (楽しさ広がるまちづくり)

ここでも二つの創造事業を計画いたしました。

最初に、まちづくり活動支援事業であります。この事業は、住民のみなさんが主体的に考え実践していく、自立的なまちづくりを包括的に支援する制度として、十三年度に引き続き新世紀創造事業として実施いたします。「花と緑の千年物語」事業と連動して、地域で行う花づくり活動など、住民のみなさんが汗を流しながら、創意工夫して



町民同志のつながりが文化交流へと発展します(かわにし夢きやらばん公演『天鱗』より)

行うまちづくりは、大いに応援したいと思っております。

続いて、全国かわにし交流事業であります。平成十一年七月に、わが川西市の素人劇団である「かわにし夢きやらばん」の一行が、奈良県川西市に出かけて公演したことが縁で、このたび奈良県川西市の「町民劇団」を当川西市にお招きし、兵庫県川西市や山形県川西市のみならずにもご案内して、住民同士の交流の場を設けることにしたものです。公演は九月中旬を予定しておりますので、大いに交流を深めていただきたいと考えております。

そのほかの主要な事業として、賑わい空間整備事業についてご説明したいと思っております。基幹的施設として、温泉施設、健康プール施設、生涯学習施設、福祉施設、商業施設などを整備するものでありますが、温泉施設につきましては、地権者の皆様方の深いご理解とご協力をいただき、昨年十一月に『千手温泉千年の湯』としてオープンすることができました。以来連日大勢のみなさんからご利用をいただき、予想以上の盛況となっております。今後も末永く愛され、賑わい続ける施設であってほしいと念願しているところであります。

温泉施設に続く健康プール施設の整備につきましては、平成十六年オープンを目指した取り組みがすでに始まっており、その他の公共施設についても、財政状況を勘案しながら、適宜整備を進めて行きたいと考えています。

商業施設エリアにつきましては、用地確保にもほぼ見通しがつきましたので、整備計画をより具体化していく段階となりました。出店事業者、町商工会、株式会社まちづくり川西としてかりスクラムを組んで、実現に向けて最善を尽くしたいと考えております。

すべてが元氣な川西市に (開かれた自主的行政の推進)

市町村合併の問題には、二十世紀が「地方の時代」であり、「市町村の時代」であるために、国が進める地方分権の受け皿として、市町村の行財政基盤を強化するねらいが根底にあります。そして、国や県は法律による特例措置や各種財政支援措置などの積極的な支援により、合併を促進しております。

しかし、私は、国でも県でも市町村でもなく、合併の主役はあくまでも「住民」であり、追

求されるべきは「そこに住む人々の幸せ」であると考えております。なおかつ、町の将来や住民のみなさんの生活に大きく影響するこの合併問題に対する拙速な判断は、必ず将来に禍根を残すことになるとも考え、慎重に検討しているところです。

本年一月にアンケート調査を、また三月には地域別の懇談会を実施いたしました。結果については、広報かわにしに掲載させていただいたとおりですが、町では、市町村合併に関する情報を、今後でもできるだけ分かりやすく町民のみなさんにお伝えして参りたいと考えております。



「町が元氣」のもと子どもたちの元氣 (十王堂の角力大会)

平成十四年度は、これまで以上に住民のみなさんが議論を深め、適切な判断ができるような情報提供につとめ、みなさんのお考えをお聞きする機会をできるだけ設けながら、町の自立についての可能性も十分追求したうえで、川西市の進むべき方向を見極めたいと考えております。

さて、十四年度は、第五次川西市総合開発計画の後期基本計画が二年目を迎え、市町村合併問題を視野に入れながら、さらに進む地方分権の受け皿としてふさわしい力をつけていくべき年となります。そして求められるものは、「物」の豊かさから、

人の心の満足感や充足感が価値観の中心になる「知」や「心」の豊かさに変わってきています。町民のみなさん方と知恵を出し合い、ともに汗を流しながら、「人が元氣、町が元氣、自然が元氣」な川西市にしたいと念願しております。何分のご協力を賜りたく、切にお願いを申し上げます。

議会報告

三月一日から始まった第一回川西市議会定例会は、二〇日に全日程を終え、閉会しました。

一日は、「平成十三年度川西市一般会計補正予算（専決第六号）」ほか三件の専決処分した事件が承認されたあと、「川西市監査委員条例の一部を改正する条例」ほか八件の条例改正、「平成十三年度川西市一般会計補正予算（第五号）」ほか六件の特別会計補正予算が原案どおり可決されました。

四日、町長の施政方針と新年度予算の提案説明があり、以後、各常任委員会の調査、町政に対する総括質疑を経て、二十日、平成十四年度一般会計予算と六つの特別会計予算、水道事業会計予算が成立しました。

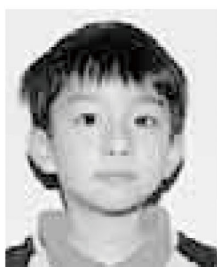
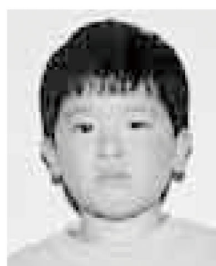
追加日程では、清水進議長の辞職に伴う議長選挙、副議長選挙が行われ、議長に吉楽正実氏、副議長に北村公男氏が選出されました。また、総務文教常任委員長に小林正夫氏が、同副委員長に押木貢氏が、議会運営副委員長に清水美代子氏がそれぞれ互選されました。なお、議会の模様は四月二十日発行の「議会だより」の中で詳しく紹介されますので、ご覧ください。

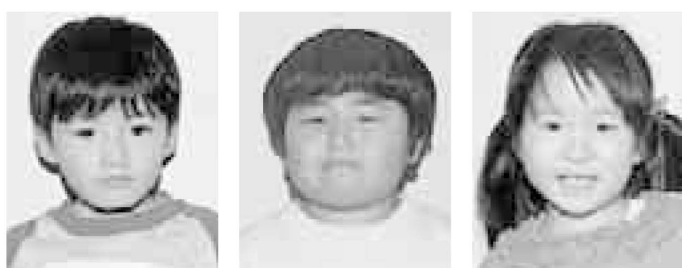


千手小学校
34人

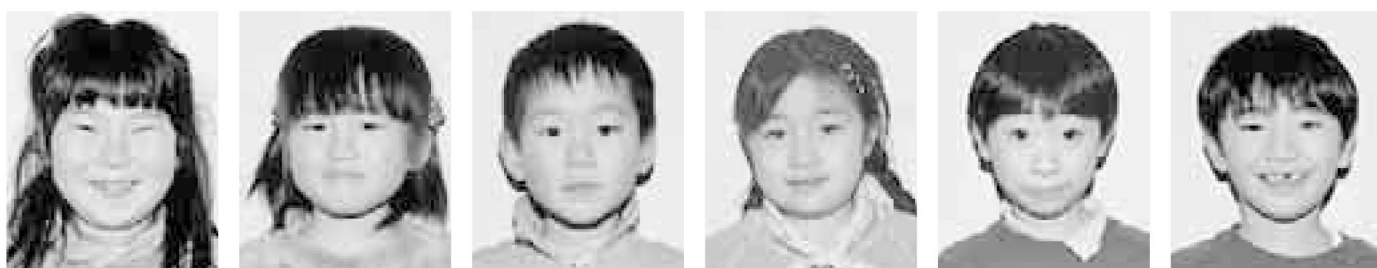
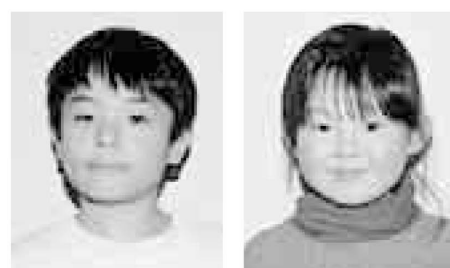
入学おめでとう 新1年生

4月5日、町内の各小学校で、入学式が実施されました。
今年の1年生は、4校合わせて83人（男子47人、女子36人）
です。各小学校の1年生を紹介します。





上野小学校
 25人





橘
小
学
校
 20人



仙
田
小
学
校
 4人



新町と新田

新町新田という呼び名を、文字だけについて考えると、何だかオカシイ。

新町と新田と、どちらにも「新しい」という意味が重なって、二重の表現になる。「新田」にとらわれて考えると、歴史はそれほど古いことにはならない。高田城主松平光長の時代に、新田開発が強力に奨励されて、領内の耕地面積が大変に増した。このとき開発されたのが「新田」と呼ばれて、一村の扱いを受けるようになった。鎮守は神明社が多い。



新町新田の神明社

古い村の「新町」から、井川・小島・大島・渡貫氏などが「新田」に移ってきて、「新町」と「新田」が合体し、現在に至る新町新田が成立した。

新町は「荒町」とか「新開地」の意味で、荒地を開いて新しく起こした土地に付けられる例が多い。中里村の「荒屋」も同じことである。

県内では、蒲原地方に「荒野」↓興野、郷屋」地名が多いし、ソネも新墾地で（曾根・茨曾根）、ハリも同じく上野に張間田がある。ハリ地名は関東に多い。

新しい品物を新物だといったのは、つい最近までのことであるが、「荒れ」の意味を嫌って、新町にしたのかも知れない。「佳字を使う（いい文字に変える）」ことはずっと昔からあった例で、中頸城郡の夷守↓美守の書きかえは有名である。

おらうらの話

上野 上村政基

(第十二回)

「新町」は、最初橋地区に接する太田原に村づくりしたと伝えられ、のちには七軒になったと語られている。一七軒にもなったが、また、二軒は転出したともいう。

慶安二年（一六四九）に、頸城から入ってきた内山氏三人兄弟があり、上野の田麦に仮住居して新田開発にはげんだ。頸城地方では、すでに水利技法が普及していたところであるから、川水を引き入れての開田を進めたのかも知れない。

古い新町から移ってきた人た

ちを加えて、新町新田の耕地は次第に整えられ、元禄七年（一六九四）村鑑には、家一九軒（うち寺二）・人数一四二人・馬一九頭と記載されている。約五十年後の寛保二年（一七四二）には、三二軒（うち寺一）・二一〇人となっており、見事な発展ぶりである。

開発のリーダーとなっていた内山氏は、寛政二年（一七九〇）に功績を認められて、領主から二〇石の免高が許された。免高というのは、その分だけ年貢納

入を除かれることである。

また、これらの話とは別に、現集落の東に江北地名があるけれども、一段下がった平坦地で、長者屋敷と呼ばれる一区画があった。広い原の下段だから湧き水もあって、水田を開くのも容易であっただろうし、一軒か二軒の家も出来ていたらしい。

あるとき、大層な嵐で住むのに危険を感じ、将来の難を避けるために、さらに下段の寺ヶ崎に移って落ちついたという。すでに、そのころは、寺ヶ崎に住んでいる人たちがいたのであ

うと語る人がいた。



集落を見下ろす位置に立つ「新町新田発祥之地」の石碑

なくなった寺など

貞享元年（一六八五）に創設された浄土真宗の円成寺があった。新田開発した内山家の縁によるものであるが、ムラの寺だということで、集落内全戸から大切にされてきた。

天保年間（一八三五ごろ）の大飢饉で、秋山郷から難民が訪ねてきたのに協力してやったり、旅僧が伝えた眼病治療が評判となって、近郷から人々が寄ってきたりするので、特定の檀家もないのに寺の行事はなかなかの賑わいを見せていた。

昭和二十年に閉山された。

なお、集落内の家々につながる菩提寺は、いろいろに分かれており、当初の「新町」成立の状況が、それぞれ別個な事情を背負った寄り集まりであったものかと想像される。

また、曹洞宗系の尼寺である如意庵があった。内山家の新田開発に手助けした稲葉村の丸山家があり、同家の弟が自宅の守

り本尊を納めたのがはじまりだという。

代々尼僧が守り、宗派に関係なく住民全体が寄るところであったが、昭和初年に無住となり、三十年代のころか取り壊しになった。敷地は農村公園の一部になっていて、卵塔墓や二十三夜塔など数基が残っている。

新町新田校

「新町新田校は、仲右衛門ドンの土蔵のトバグチから始まった」といわれている。トバグチは苦口であり、菅で編んだ苦を吊り下げているような、粗末な入口がトバグチである。

明治新政府の教育施策を受けて、明治七年三月一日に上野の慈濟庵で上野校が開設された。しかし、すぐ六月に新町新田校が設けられて近隣地区の本校となり、千手・伊勢平治・霜条・鉢・樽沢・名ヶ山校が分校として含まれた。

新町新田校が開かれ、本校になったりしたのは、丸山家の力が大きく影響している。直接の学区は新町新田・元町・田代・星名新田であった。その後、教場は円成寺に移った。

十一年四月に上野校と統合してなくなったというが（上野小沿革誌」など）、同年八月十二日付けの卒業証書が残っている。

真剣に考えよう 合併について

その六

今回は、三月十二日から二十六日の間に
四会場で開催した「市町村合併についての
懇談会」の概要をお知らせします。



懇談会には、町から田口町長、
押木助役、根津収入役、小海教
育長が出席し、田口町長のあい
さつ、押木助役の資料説明、そ
して懇談という日程で進めまし
た。

なお、参加者は次のとおりで
す。

十二日 総合センター 四九人
十三日 克雪センター 二七人
二十五日 上野コミュニティセ
ンター 四一人
二十六日 高齢者コミュニティ
センター 二一人
合計一三八人

どっちに転んでも大変な
時代になる

田口町長のあいさつ

合併問題は、十四年度の町政
にとって一番の問題である。こ
の行方によっては住民の将来の
暮らし方まで変えてしまう。



懇談会は田口町長による町政全般に
わたる説明から始まりました

私は、今の段階ではまだ合併
がいいとか悪いとかということ
を示唆することは控えている。
まだまだ私どもの協議や勉強も
不足である。一月のアンケート
調査については、「現時点での
お気持ちを教えていただきた
い」ということで実施したが、
「合併が必要」という方が五
四・八%、「合併しない方がいい
」という方が三〇%という結
果が出ている。しかし、これに
よってこれからの動向を定めて

いくということはまだできない
状態である。

国や県から、六市町村あるい
は四市町村という形で合併の組
み合わせが出ている。その関係
の中で、中里、津南、松之山、
川西で協議を始めているが、ま
だ基礎データを集めたくらいで
真剣な討議までは至っていない。
また最近になって、十日町と松
代から「協議会の中に入れてほ
しい」という申し入れがあった。
一緒に進めていく予定で
あるが、まだ実際の協議が進ん
でいない。このようなことから
今の段階ではどっちがいいとい
うことは言いようもない。

とにかく今わかってのこと
は、合併をしないと国からの交
付税が狭まるばかりであって、
どっちに転んでも大変な時代に
入ると思っている。行政として
は、組織が大きくなれば行政コ
ストが下がるけれども、皆さん
方へのサービスについては、今
以上に上がるといことは言え
ない。また、二十五年経つと川
西町の人口が五千三百人になる
という推計もある。あまり人口
の小さい町になると、活力の低
下が著しいという心配もでる。
いろいろな心配が頭の中に巡
っているが、とにかく皆さん方
にいろいろな情報を、時をとら
えながら余すところなくお伝え

をして、みんなと一緒にこの合
併問題を考えていきたいと思っ
ている。

私は、よその市町村との協議
がうまく整い合併をするのであ
れば、合併特例の期限である十
七年三月三十一日までがいいと
思っているが、無理やりその期
限までということとは決してし
てはいけないと思っている。

千手（総合センター）での
質疑応答

子どもたちの声を聞けては？

質問 夕飯の時、子どもに合併
問題の話をしたら、子どもは
「川西町」の名がなくなるから
「いやだ」と言った。子どもた
ちに対してアンケートをする考
えはないか。

押木助役 こういう問題に対し
て、通常未成年者に対するアン



細部にわたる説明、解説は押木助役
が行いました

ケートは実施されていないと思
うが、実施するにしても、どこ
までの年齢を区切るかは検討を
要する。

質問 アンケートの結果では、
四市町村の合併が望ましいとい
う人が一番多かった。巷の話で
は、中里、津南は合併の方向を
向いていないようであるが、今
後どういう方向に進むのか。

田口町長 十日町・川西は川を
挟んで近いが、十日町・津南は離
れている。津南には端になって
しまう危機感があるように思う。

中魚三町村と松之山とで合併
問題研究懇談会を立ち上げてあ
るが、中里村長選、十日町市長
選などがあつたため、踏み込ん
だ意見交換は進んでない。また、
なぜ十日町を抜いた研究会かと
いうと、六市町村の半分以上の
人口がいる十日町を入れると十
日町主体となってしまう。そこ
でひとまず抜いて考えてみよう
ということになった。なお、こ
れからは十日町も入れた研究会
とする方向性もある。研究はし
っかりとやらなければならない。
質問 学校の授業の中で、合併
問題を取り上げる考えはあるか。
小海教育長 今のところは、考
えてないが検討してみたい。
質問 アンケートは、若い人た
ちの回答率が低かったが、その
理由をどう考えるか。

担当職員 選挙の投票率も概して若い人たちは低い。若い人は、政治や行政などに関心を持つ人が比較的少ないのでは。

質問 アンケートでは、合併を必要とする人が五四%いたが、どの程度であれば合併を考えるのか。

田口町長 今回のアンケートは、今現在の気持ちを聞いたもので、「何%以上あれば合併を判断する」というものではない。まだ、その段階にいつてない。秋以降に再度合併懇談会をやった後に、少なくとも、もう一度アンケートを取る必要があると考えている。

三〇歳代だけは合併反対が多数

質問 アンケートの結果について、合併賛成、反対の年代別内訳があれば教えてもらいたい。

担当職員 二〇歳代は賛成が五三・三%、反対が二六・六%、三〇歳代は賛成が四三・八%、反対が四六・九%、四〇歳代は賛成が五七・一%、反対が三一・七%、五〇歳代は賛成が五四・三%、反対が三六・二%、六〇歳代は賛成が六〇・三%、反対が二六・五%、七〇歳以上は賛成が五四・三%、反対が二三・七%である。

意見 盛大な説明会になると思っていたが関係者ばかりである。今日の会場はさみしい。PRが不足している。町民全体から合併のことを考えてもらわなければならない。「合併はしてもしなくても、『痛み』が出ることを町民に徹底することが必要である。年度内くらいに各集落を回って、膝を合せながら話し合うことも必要だ。」

田口町長 PR不足か、皆さんがまだまだこれからと思っているのか、今日の事を反省材料としたい。

秋以降、より詳しい内容で懇談会を開催し、来年の今頃には議会ともども方向性を出していきたい。

小川総務課長 本日配布の検討資料は、PRも兼ね町内全戸配布を予定している。

質問 来年の今頃には「判断」ということであるが、住民投票をするのか、又はアンケートを取るのか。

田口町長 住民投票については安易にするべきでないと考えている。

先を読んだ情報提供を

質問 検討資料に将来の人口と高齢化の推計が出ているが、十年後、二十年後は実際どうなっ

ていくのか。

若い連中はやっていけなくなるのではないのか。某新聞のように、除雪は集落対応ということになると、仙田はやっていけなくなる。先を読んだ資料を作ってもらいたい。

田口町長 将来どうなっていくかは、分からないことが多い。人口五千人台となると、活力は落ちてくる。交付税の動向などもう少し具体的な説明ができる状態にあればいいのだが。

質問 アンケートの結果を見ると、世代によって考え方が違う。若い世代に次代を託すため、教育的分野に合併問題を入れるべきだと思う。

田口町長 合併問題を子どもたちに全く戸を閉ざしていくのは良くないと考えるが、国の合併推進施策が財政危機に起因していることから、その辺の説明が



出席者に議員、役場職員の占める割合が高かった千手会場（総合センター）

難しい。

小海教育長 子どもたちに夢を語らせればいろいろの返答は返ってくる。ただ、合併は難しい問題で、子供たちがどの程度判断できるか。話題を提供してみる程度は必要かと思うが：

仙田（克雪センター）での質疑応答

苦勞して貯めた川西町の貯金はどうなるの？

質問 合併した場合の県の支援について説明してもらいたい。

担当職員 補助金などについては、検討資料の三ページのとおりにあるが、六市町村で合併した場合、合併特別交付金が二億三千万円交付されるし、合併後の一体的なまちづくりのために補助事業の優先採択も考慮される。

質問 四市町村とか六市町村とかという組み合わせが想定されているが、松代、松之山から川西、十日町を見た場合、どのようになっているのか。

押木助役 東頸城では二年程前から任意の協議会で話し合っているが、松代、松之山は、どちらかといえば十日町の方を向いているようだ。

質問 町は、一一一億円の借金

があり、返済の半分は国が助成をしてくれるということであるが、この三年の間に合併をしなかった場合はどうなるのか。

担当職員 合併するしないにかかわらず、既に借入れたものについては、借入れ条件として国の助成は確定している。合併しないからといって借金の返済において冷遇を受けることはない。

ただ、新たに借金を起こすものについては、国の財政危機の影響から、例えば、今まで借金返済の五割を支援してもらっていたものについては、四割、三割に下がっていく可能性がある。

質問 川西町は、近隣に比べかなりの貯金があるが、合併した場合はどうなるのか。

担当職員 これからの課題であるが、関係市町村の協議会で財産や借金のことが話し合わなければならないと思う。今の段階では未定の事項である。

なお、財産や借金に余りに差があるとうまく結婚できるのかという疑問はある。

押木助役 川西町が苦勞して貯めた貯金であるので、合併時に全部持ち出すことはできない。

十日町市抜きは考えられない

合併は本来似た者同士が一緒になった方がいいと思っているが、中魚沼郡でいえば川西は飛地である。一方、十日町とは川を挟んですぐその関係で、十日町抜きでの合併は考えられない。ただ、財政などいろいろな面で



仙田会場では、地域の持つ課題、危機感を背景にした意見が多く出されました（克雪センター）

十二か月必要ということになると、あと一年の中で合併が否かという結論を出すということか。

田口町長 基本的にはそうだ。ただ、任意の合併協議会で話し合いを進めていく中で、どうしても一緒に成れないということであれば途中離脱もありうる。

これからは、若い人たちからも議論に加
わってもらうことが必要となります

上野（上野コミュニティセンター）での質疑応答

たい整備されたが水が来ない。それで数年前からダムの水を利用させてもらいたいということ、国へお願いをしてきた。川西ダムと五升苗ダムについては十四年度中には承諾が出る予定。松葉沢ダムは工事中、坪山ダムと長福寺ダムは工事が終つたばかりで、今年はゴーサインは出ない。合併するとかしないとかの前に、これは直接住民生活に関わることで、一日も早く持つてこれるように頑張つている。

意見 私はこの町村合併に賛成している一人である。その理由は、行政もやはり企業と同じだと思っている。川西も町村合併して四十何年になる。節目である。政府も今行政改革に一生懸命であるから、流れに乗ること。もひとつの考え方ではないか。流れに乗ってダメならまた考えればいいと思っている。



「合併に賛成」「合併には反対」というはっきりした意見が出された上野会場（上野コミュニティセンター）

田口町長 こういういろいろな意見をお聞かせ願ったり、意見交換をさせてもらうということが一番大事である。

質問 今まで合併しなければならぬと思っていたが、十日町の議会を見ると、とても合併なんてできないと思った。温泉棟でもめたわけであるが近隣市町

村がお互いに足を引っ張って、それぞれ赤字を出すようになると思う。議会での発言からすると、その発想は、合併しても中心地だけを考えるものだと思う。

自分中心の考えを改めなければ…

田口町長 今の十日町ステージ絡みの議論が、私も中魚沼三町村にとっては非常に気になっている。仮に四つの市町村が一緒になった場合でも、六割は十日町の人口である。その一番人口のある大きい所が、あまりにも自分のことだけしか考えていないという反発がある。十日町は母都市なのだから全体のことをもって考えてもらいたいと前から言っている。選挙戦の後遺症があるのだろうと思うけれども、自分たちのことしか言っていないという気がして、そんなりと合併論議に入れるかどうか非常に心配である。川西は中魚沼とは言っても、十日町が間に挟まって飛び地になっている。地形から言っても、人の交流から言っても、勤め口から言っても、十日町が一番近いのだが、自分中心に見える今のあり方を変えてもらわなければ、非常に難しいだろうと思っている。

質問 今日説明を聞いて、今回

の合併はバブル景気の時の考え方が今の不景気を引き出し、結果として、強制的な上意下達な合併論になっていると感じる。私は合併うんぬんというよりも、広報二月、三月号を見て、私も町づくりをもう一度真剣に考えていかなければならないということをつくづく感じる。広報の表紙に出ている、ボランティアやゆうきの会の皆さん方が活躍している姿を見る時に、何も合併を急がなくても、まず地域づくりが一番大事じゃないかなと感じている。合併期限にこだわることなく町づくりを見直していただきたい。

田口町長 合併するとかしないとかは別にして、私も、川西が持っている力をもっともって掘り起こしていくべきと考えているし、今は人づくりを主体にしながらやっているつもりである。合併は向こうにやってもいいから、今をもっともって中味の濃いものにしろというご意見である。

質問 アメ玉といわれる、合併時の交付金や交付税、これは全額みなくれるものか。返済するものか。

担当職員 資料の三ページ、真ん中あたりに合併に伴う国県の支援措置というのがある。国の欄に合併特例債というのがある。

て、これは借金である。四市町村であるところまちづくり建設事業で二百五十八億八千万円借りられる。六市町村であると人口が増えたりするので三百三十六億六千万円借りられるということになる。



「合併する、しない」だけでなく、まちづくり全体の議論が交わされることが大切です

川西は過疎地域であるので、過疎対策債というのがあり、借金返しの七割が交付税を通して国から面倒を見てもらえる。合併特例債は、それと同じようなしくみになっていて、借金をするにしても有利な借金である。その下に合併市町村補助金というのがあるが、合併して三か年に分けて、四市町村の合併である四億八千万円、六市町村であれば六億円くれるというお金である。県においても合併特別交付金というのがある。四市町村であれば十五億円、六市町村がまとまれば二三億三千万円

交付される。これ以外にも国、県のいろいろな補助事業の優先採択もある。これらをアメ玉にして合併促進を図っているということである。

質問 有利な過疎債というのがあるということだけでも、合併したらその対象から外れるのか。

担当職員 過疎債については、合併しても、過疎であった市町村で行われる工事については当分の間認めると特別に配慮されている。

住民検討委員会を立ち上げます

質問 合併問題に対し町民から関心をもってもらうために、集落ごとにこのような会合をしてもらいたい。また、合併ということになったら対等合併にしたい。

田口町長 十日町、松代を除いた四つの町村で研究会を持っているが、この度十日町、松代から協議の仲間に入れてもらいたいというお願いがあった。新たに協議会に入ってもらおう意向であるが、これはまだフリーな気持ちの話であるけれども、十日町、松代を除いた町村の中では、対等合併が基本だということが話し合われている。また、もし

合併する場合は、市の名前も、新しい名前で行きたいという話が出ている。母都市から全体のことを考え、それくらいの気持ちになってもらわないと、周りと一緒にしようという気にならないだろう。

合併は、本当に重要な問題である。細かに各集落に入って懇談をさせてもらう予定であるが、その他グループ、団体、仲間同士など、いろいろな話し合いを組んでいきたい。

また、住民による合併検討組織を立ち上げたいと思っている。興味のある方は参加いただければありがたい。

橘（高齢者コミュニティセンター）での質疑応答

アメ玉はみんなでしゃぶる？

質問 資料に、合併に伴う国県の支援措置として四市町村と六市町村の特例債や補助金が上がっている。例えば補助金が四市町村の場合に四億八千万円になっているが、これは一市町村ごとの金額か、それとも全体での金額か。

担当職員 全体である。

質問 特例債もそうか。

担当職員 そういうことである。

質問 中魚の三町村と松之山で

協議をしたという説明があったが、松之山がその中に入ったという理由は何か。松代が抜けた理由は何か。

田口町長 合併の研究会について中魚三町村の協議で、「四市町村又は六市町村にしても十日町が一番人口が多い。合併後においても半分以上を十日町が占める。どう見ても母都市となる十日町を、始めから入れて協議すると先導されてしまう。周辺の、農村として生きてきた似た者同士だけで研究する必要がある」ということで始めた。松代、松之山にも、「中魚三町村はこういう勉強会を始めるが、皆さんどうですか」と声を掛けた。そうしたら松之山だけが「一緒にさせてもらう」と。松代は「十日町も入るのだから嫌だ」ということで入らなかった。

意見 広域合併した場合に、物理的に地形がどうなるというわけではないので、一番懸念されるのは財政である。近い将来、一〇人に四人が六十五歳以上という状況で、財政的にしつかりしてないと必要とされる高齢者施設も建てられなくなる。

議員・職員が減ることはいいことか？

質問 今まで合併すれば、議員



地域の将来がかかっているだけに会場には「説明の一言も聞きもらさない」という雰囲気があります(高齢者コミュニティセンター)

が減ったり職員が減ったりして経費が節減されるのでいいのではないかと思っていたが、橘地区は地形的にいつて端っこだから、地元からの議員がいなくなると今まで以上になんの事業も来なくなってしまうのではないかと心配がある。

押木助役 資料に、町職員の意見として「川西町が合併しないでしたら」、あるいは「市町村合併のメリット、デメリット」ということを載せてある。その中に今言われたような、住民の意見が行政に届きにくくなるのではないかというようなこともデメリットとして書いてある。

川西町の社会資本整備は進んでいるが…

質問 川西町の社会資本整備は近隣に比べるとはるかに良い。

したがって、パイプ灌漑を除けばそういう投資を当分しなくてもいい状況にある。ところが、十日町はまだ下水をやり、ほ場整備をやっている。他の町村を見ても大きな面積があるということになるとどうしてもそちらの方へ金をかけなければならぬ。結局、合併すると川西の住民は出すだけで入ってくる金はないことになる。そうすると人口は減ってもアイデアを出しながら、何とか一人立ちをしている方がいいのではないかと思ったりしている。

田口町長 川西は、たった今合併しなければどうにもならないという状態にはない。ただ二十年、三十年後にどうだと言われると、全く分からない。川西は割合にコンパクトでまとまっているので、他の市町村に比べると余計な金がかからないものだから、ほ場整備や下水整備が早く終わったのではないか。人口の減だけが怖いと思っている。

質問 どちらかと言えば私は十日町市と中魚沼郡で合併するの

がいいような気がする。

田口町長 六市町村の中で今すぐ合併したいと思っている所は三つである。中魚沼郡の三つはそこまでまだ追い詰められていない。

質問 十日町ステージの問題

で、温泉を中止をすると言っていたのが、やることになった。千年の湯も今は大変好評のようであるが、いつまで続くのか分からない。十日町にできれば、中里と合わせて三すくみになる。この他にも問題が潜在しているのではないか。このような、合併は必要とは思いつながら、急いでしなければならないのかという疑問がある。



何回も何回もひざつき合わせた懇談会も今後も予定していく予定です

るには大勢から入ってもらわなければならない。財政的にたつた今は大丈夫だと言っても、まだまだ余力のあるうちに合併をした方がいいのではないかと考える方もある。

質問 今の町の財布で、賑わい空間だけに限らず、何か事業をやっていくという考え方はないか。

田口町長 合併の方向が出た場合、どこの市町村も持ち金にデコボコがないようにしなければなりません。基盤があるということは、住民の皆さんの要望があったのに対して我慢してもらった部分もあるわけだから、ある程度は整理をして一緒にしなければならぬと思う。

質問 十日町の起債制限比率が一二・五で、一四を超えると県の指導を受けるという。そういう状況なのに十日町ステージに三十何億お金をかけるという。中心都市になるんだらうけれども、あんまり財政状況の悪い所とは、という雰囲気は津南にはあるようだ。川西でもそういう気持ちを持つ人もいるのではないか。

田口町長 市町村間でのいろいろな入り組んだ話はこれからである。津南は新聞等での情報ではお話のとおりであるようだ。

合併は、簡単にいえば人減らし

質問 川西は十七年三月三十一日に間に合わせて合併するのか。そうとすると、準備に最低二十二月必要ということであるので、決断まであと一年弱くらい期間しかない。この間にいかにして住民意識を集約していくのか。その辺の情報提供をしてもらいたい。

田口町長 情報公開というのは当然であって六市町村あるいは四市町村の協議の中で決まったこと、決まらないこと、問題点など、協議会ごとに広報等を通じて、遅滞なく流したいと思っている。

協議の中で、これじゃとてもじゃないかという時は、無理はない。どうでも十七年三月三十一日まででなくてもいいと思う。

中心だけついてもいいよ...

質問 合併特例債について、新潟、黒埼の場合は、黒埼に全部かけるということをお願いしたいけれども、この地域ではそうはならないと思う。中心だけうまくいくのでないか。

押木助役 合併の一般的手順が資料に出ているが、任意の合併協議会を設立して、そこで合併協議項目の抽出、あるいは調整方針の検討、市町村建設計画

の作成に向けた地域の将来ビジョンの検討などがある。これらの妻有郷をどのような地域にするかというような構えで向かわなければならぬ。真剣に協議をしていってその中でどうしてもダメだと思ったら、一抜けということもありうる。

意見 十日町へのアクセス道について、下島を通っていくるようにするのも検討すべきだ。また、合併対策として、橘地区として協議会を作って将来計画を煮詰めることも必要だ。

質問 合併は、中心やそれに近いところが早く良くなり、周辺は後回しである。川西の財政がまだ良いのであれば、周辺の町道整備など早くやつてもらいたい。

田口町長 放水路の架橋は、町道としては難しい。合併を絡ませれば広域連携のなかでやりやすい。

合併検討組織の委員を公募します！

住民主体の合併問題検討組織として「市町村合併問題検討委員会」を設置する予定です。委員の定数を概ね二〇人と想定していますが、このうち三分の一程度の委員を公募します。

応募を希望する方は四月三十日までにお申込みください。

■お申し込み・お問い合わせ先

〒九四八—〇一九二 川西町

役場総務課市町村合併担当

☎68—3111(内302)

平成十四年度の事業方針決定（後編）

—プレイベントや映像作品の公募を実施します—

先月号に引き続き、平成十四年度の大地の芸術祭の事業計画を掲載します。来年の開催に向けてプレイベントや公募など多彩なPRを展開するとともに、グッズ開発や交通機関などの受入準備を進めます。

●越後妻有の空に花が舞います

十四年度のプレイベントは、より大きな話題をつくり、圏域外から多くの動員を確保する規模で実施します。具体的には世界的に著名な生け花作家・中川幸夫氏の花を使った大規模なアートイベントを計画しています。

中川幸夫氏作品「花坊主」



●映像作品を公募します

昨年に引き続き公募を実施しますが、より国際的な発信を意図して、映像ジャンルに絞って

実施します。入選作品は第二回大地の芸術祭の会期中に圏域全体で作品展開されます。

●より多くの情報発信をします 海外に対する広報活動を強化したり、口コミの裾野を広げていきます。また美術以外の分野に対しても、情報を発信していきます。

パンフレット、ポスター、共通バスを制作し、協働者や美術関係者、観光業者などに配付し、周知を図ります。ホームページのデザインや更新頻度をグレードアップさせます。

プレイベント時や作品制作・ステージ整備状況に合わせツアーを開催し、誘客活動に努めます。

●受入準備を進めます

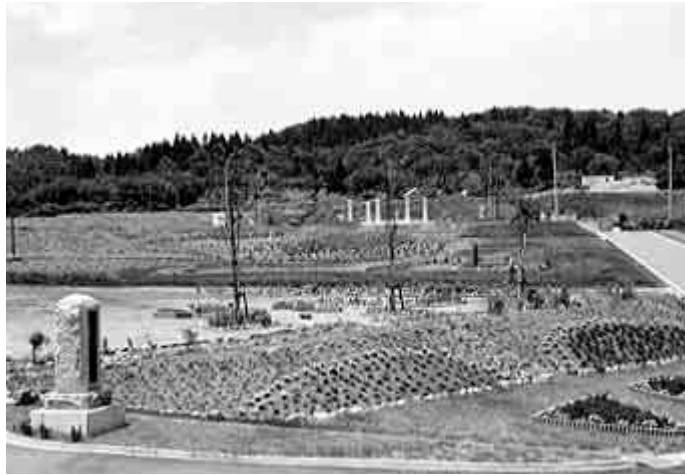
共通バスやグッズの開発に着手します。来訪者が、より効率的に芸術祭を楽しめるよう、交通システムを企画していきます。

●こへび隊も準備

こへび隊の再組織を支援し、活動に必要な補助を行います。

平成14年度

まちづくり活動支援事業



花のアートコンクールで最優秀賞を受賞したなかまの家の作品

どんな活動が対象になるの？

自主的に行う先進的、創造的なまちづくり活動で、概ね次のような活動を対象とします。

- ①まちづくり意識啓発活動（講演会、研修会、シンポジウム、各種計画策定など）
- ②地域間交流活動（地域内外や都市との交流、国際交流など）
- ③地域活性化イベント（演劇、コンサート、伝統芸能伝承活動など）
- ④景観、環境づくり（広場整備、リサイクル活動、環境施設整備など）
- ⑤その他事業（地域再発見・価値づくり、ボランティア、地域リーダー育成など）

申請団体募集中!!
町では、町内のまちづくり団体（集落、青年団、女性団体、老人クラブ、ボランティア団体などの五人以上のグループで、営利や政治・宗教活動を目的としていないもの）が、自主的に行うまちづくり活動に対して、その活動の一部を補助して支援する『まちづくり活動支援事業』を募集しています。

円、下限五万円。ただし、申請件数が多い場合は、予算の範囲内において補助金額を調整することがあります。

●今までに、助成を受けた団体は対象外とします。

花のアートコンクール参加団体への助成！

今年も昨年に引き続き「第二回花のアートコンクール」「第二回花のアートフェスタ」を開催します。（詳しくは、既に全戸配付済みのB4版のカラーチラシをご覧ください）そこで、積極的に花づくりを進める上記各団体へ「花のアートコンクール」に応募することを前提として、その活動の一部を補助して支援します。

●補助率Ⅱ補助対象経費から他の補助を除いた額の六〇％以内

●補助対象経費Ⅱ上限二〇万円、下限五万円。ただし、申請件数が多い場合は、予算の範囲内において補助金額を調整することがあります。

●今までに、助成を受けた団体は対象外とします。

※詳しくは開発課地域政策係までお問い合わせください。

TEL 68-3111
FAX 68-3828

健康づくり・元気づくり

食生活改善推進委員（ヘルスメイト）の活動

川西町食生活改善推進委員は、昭和四十一年に栄養教室修了者二十四人で活動を開始し、昭和五十年川西町食生活改善推進委員協議会を設立して現在まで活動を続けています。

この会は、食生活改善推進委員養成のための栄養教室で食生活栄養の基礎、生活習慣病予防、健康づくりについて学習を積み「私達の健康は私達の手で」を合言葉に食生活を通したボランティア活動を行っている全国的な組織です。

現在、千手地区一五人、上野地区一〇人、仙田地区七人の四十二人の会員があり、乳幼児健診、

すくすく教室の離乳食やおやつ作り、住民検診の協力、高血圧予防のための減塩・骨粗しょう症の予防・その他生活習慣病の予防のための調理講習会などに活躍しています。

今年度は、健康づくり・元気づくり講習会（ヘルスサポーター21事業）を中学校を会場に実施して、四〇代から八〇代の女性三十二人と会員三十四人が参加しました。講習会の内容を簡単に紹介します。

＊食生活改善推進委員活動の紹介
食生活改善推進委員の活動内容を知らない方が多数おられました。

＊健康にいがた21って何？
県民の一人ひとりが、積極的に健康づくりに取り組み、健やかで、いきがいに満ちた生活のできる社会の実現を目指して策定した健康づくりの指針

＊BMIで肥満をチェック
適正体重・肥満度の計算

＊塩分は意識してうす味に
減塩とカリウムを摂ることの必要性

＊調理実習
参加者と食推といっしょに実習をして試食

一日を終了して、参加者からは、楽しかった、また実施してほしいとの声が聞かれました。

この日のために会員が地区ごとに研修を重ね、参加者と共に学び有意義な一日を過ごしました。この経験を生かして食を通しての健康づくりの活動を続けていきます。



＊詳しくは開発課地域政策係までお問い合わせください。

平成13年度まちづくり活動支援事業実績一覧表

一般分

申請団体	事業名・場所	事業の概要	事業費内訳（円）
南台町内会 代表 貴田健三	《事業名》 南台公園造成 （なかよし広場） 《場所》 南台町内	《目的》 交通安全（事故防止）のため子供の遊び場確保及び集合場所の造成。 《内容》 花壇延長 73m 張り芝 232m 遊具（砂場1か所、滑り台1台、ブランコ1基、テント1張、ベンチ8台、テーブル2台、平均台1か所、馬跳5か所、鉄棒3か所）	町補助金 496,000 事業費 849,870

花のアートコンクール分

申請団体	場所	事業の概要			事業費内訳（円）	
ひまわりグループ 代表 南雲ハツエ 他5人	中屋敷地内 松屋織物裏 …幹線沿… (約225平方メートル)	《目的》	空き地の有効利用と景観作りによる仲間づくり。また、従来の花畑から更にレベルアップし、アート感覚を極め、環境美化に役立ちたい。			町補助金 30,000
		《内容》	花の植栽、管理（次年度以降継続）			事業費 51,111
三箇集落 (原田、根深、下原) 代表 藤田常德 他18人	原田地内 …県道沿ミニポケット パーク内… (約95平方メートル)	《目的》	より良い景観や環境を作り、川西町の良さを啓発する。植栽や管理のボランティア活動を通して、地域の交流を図る。			町補助金 150,000
		《内容》	花の植栽、管理（次年度以降継続）			事業費 279,791
熊野社神輿会 代表 山口康司 他101人	仁田地内 …北沢橋付近、県道 沿い2か所… (約129平方メートル)	《目的》	地区活性化の一環として、沿道を美しく飾ることで環境の美化を図りたい。			町補助金 110,000
		《内容》	花の植栽、管理（次年度以降継続）			事業費 188,524
なかまの家 代表 村越家和田 他50人	なかまの家入口付近 (約450平方メートル)	《目的》	社会福祉施設職員及び利用者が、花壇整備を媒介として、地域住民との交流を創出したい。			町補助金 108,000
		《内容》	周辺へハート配置することでくつろぎの場を造る。花の植栽、管理（次年度以降継続）			事業費 192,631
川西町交通安全協会婦人部 代表 北野一美 他11人	山野田地内 県道十日町手線 古峯神社前 (約100平方メートル)	《目的》	川西町走行車輛に対する安全運転の意識付け及び町を明るくし、景観にも役立たせたい。			町補助金 200,000
		《内容》	枕木を使った花オブジェ風にデコレーションし、そのまわりにレンガを使い交通安全花文字を描く。花の植栽、管理（次年度以降継続）			事業費 387,483
上野彩りの散歩道の会 代表 渡貴文人 他29人	上野交差点付近 (約70平方メートル)	《目的》	地域の中心部にある交差点を花のウォッシュで彩ることで、うるおいとやすらぎのあるまちづくりに生かす。地域全体を花であふれさせる活動のシンボルとする。			町補助金 138,000
		《内容》	「大地の芸術祭」で使われた作品の基礎を活用し、花彩るウォッシュを制作管理する。花の植栽、管理（次年度以降継続）			事業費 241,697
総事業費	1,341,237円	総補助金額	736,000円	補助率	54.9%	



役場

No.12

桜は満開！
やる気も全開

桜の開花前線が記録的な早さで北上中です。でも、新潟県では、いったん県北まで上がった前線が反転、南下してようやく川西町にたどり着きます。



- 写真手前右
① 尾身 薫
② 住民福祉課南原保育園
③ 毎日元気に遊びます！
※もちろん、遊ぶのは「子どもたち」です。残念ながら…
写真手前左
① 藤田朋成
② 住民福祉課住民係
③ 目立たないところで貢献する、いい人になります！

※住民係は窓口の最前線で、かなり目立ちます。
写真奥右
① 藤田希美子
② 農林課振興係
③ にぎやかに、誰とでも仲良くやっていきます！

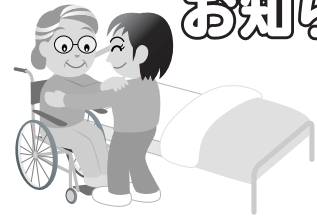
※「気のせいか、役場で見たかのような気がする」という人、気のせいじゃないです。

写真奥左
① 柳 雅士
② 総務課財政係
③ 皆さんに好かれる役人になります！

※「役人」とは、「役に立つ人」の意味です。念のため…

役人になりなす
一人ひとり簡単に紹介します。
①氏名、②所属、③こんな
役人になりなす
一人ひとり簡単に紹介します。
①氏名、②所属、③こんな
役人になりなす

住民福祉課から お知らせ



平成十四年四月から次の事業について、新年度の利用券を交付します。今までご利用されていた方、また新規に申請が必要の方は、お早めに住民福祉課福祉係窓口までおいください。

家族介護用品支給事業

- 対象者
◎介護認定を受けられた方で介護度が一、五の方、身体障害者手帳・療育手帳をお持ちの方で、在宅で介護が必要な方
- 助成対象用品
◎紙おむつ
◎尿とりパット
- 助成額
◎所得税非課税世帯：一か月六、二〇〇円を上限
◎所得税課税世帯：一か月三、一〇〇円を上限

●ご利用方法

町で指定した取扱店で紙おむつなどを購入した場合、金額の一部を助成します。また、一か月の購入額が上限に満たないときは、その金額を助成します。

●取扱店

- ◎清水薬局
- ◎佐渡屋商店
- ◎金久商店

●申請に必要なもの

- ◎印鑑
- ◎対象者の介護保険証、または障害者手帳、療育手帳

福祉タクシー利用料助成事業

●対象者

- ◎身体障害者手帳をお持ちの方で一級、二級の方（下肢・体幹障害者は三級まで）
- ◎療育手帳をお持ちの方でA判定の方
- 利用できるタクシー会社
◎昭和交通株式会社
◎十日町タクシー株式会社
◎明石交通株式会社
◎十日町交通株式会社
- 助成額
◎タクシー一回の利用につき、利用料金の五〇%を助成。（ただし、利用料金の五〇%相当額の金額が二、〇〇〇円を超える

ときは、これを限度とします）

●助成回数

◎年間十二回まで

●申請に必要なもの

- ◎印鑑
- ◎身体障害者手帳または療育手帳

●問い合わせ 住民福祉課福祉係

（☎68-3111へ内線201）

斎場の受付方法が 変わりました

斎場の受付につきまして、従来「〇〇時斎場着」としていましたが、四月一日から「〇〇時出棺」とすることになりました。

【受付時間】

八時・十時・十一時・十二時・十四時・十五時・十六時（九時・十三時は利用できません）

なお、十六時の利用につきましては、極力避けてくださるようご協力をお願いします。

【問い合わせ】 住民福祉課住民係

（☎68-3111へ内線202）

募 集

リハビリ教室にボランティアとして参加しませんか

町では、脳卒中やその他の病気などによって、機能訓練の必要な方を対象にリハビリ教室を開催しています。

この度、ボランティアとしてご協力いただける方を三人募集します。

●開催日 毎月二回（概ね第二・四金曜日）※六人のボランティアで毎回一から二人づつ交代でお手伝いをお願いします。（年間一人四回程度）

- 時間 午後一時～三時三十分（二日実施の日が三回あり）
- 内容 お茶の準備、訓練などの補助、参加者の話し相手、後片付け
- 募集締切 四月二十五日（木）
- 申し込み 保健課健康推進係（☎68-3111へ内線235）



参議院新潟県選出議員 補欠選挙

投票日は

4月28日(日)です

～投票所入場券が変わります～
はがき形式で郵送されます

投票所入場券は、従来町内の囑託員さんに配布をお願いしていましたが、今回から『はがき形式で郵送』されます。詳しくは、4月1日に全戸配布したA3判のチラシをご覧ください。

ほくほく線 開業五周年イベント

★ほつくん

五周年感謝デー

◎日時 四月二十一日(日)

午前十時～午後三時三十分

◎場所 六日町駅・六日町車両基地

◎内容 特急・普通電車展示、ミニSL、ちびっこ広場

★おかげさまで五周年

ほくほくマイレール・フエスティバル

ほくほく大島・虫川大杉うらがわら駅

BSNラジオ「かぎとみ徹の熱烈！ラジオSHOW」で公開生放送されます！

大桶ゴロゴロ、フードファイター、豚の丸焼き、三駅スタンブラリーなど、イベントやプレゼントが盛りだくさん！

◎日時 五月三日(祝)

午前十時～午後三時三十分

◎場所 三駅駅前広場

★記念グッズ

手拭い、ほつくん風船、ほつくん着ぐるみ、開業五周年イメージポスターなど五周年記念グッズ

グッズを作成しました。沿線のイベントを中心に配布します。

★問い合わせ

◎ほくほく線ホームページ

<http://www.hokuhoku.co.jp>

◎北越急行営業開発室

☎0257-150-1251

★相田みつを展

◎日時 四月二十六日(金)

～五月八日(水)

午前十時～午後五時

※二十六日は、午後一時開場・最終日は、午後三時開場。ご入場は、閉場三十分前まで。

◎場所 まつだい駅

ふるさと会館

◎入場料 当日三〇〇円(前売り二〇〇円)

※中学生以下無料

◎前売券発売締切

四月二十五日(木)

まで

◎前売券取扱窓口

ほくほく線沿線市町村役場並びに沿線市



だんだんどーモ！ ⑧

「星名家雪穴」の巻

「いやー、子どもんときは、ここの雪で冷やしたスイカや瓜をよく食ったもんだて。味？はつくくてうんめやんそ、はっはっはは…」と星名家第十五代の星名四郎さん(76・上野)は、このほど国の登録文化財になつた雪穴に立つて豪快に笑います。

星名家は、ご存じのとおり、川西町はもとより、十日町市を含めた中魚沼地域随一の豪農・豪商で、江戸時代には各地の大名とも密接な関係にありました。



さ三メートル、壁面は玉石積みで崩落を防いでいます。底は水がたまらないように排水構造となつていて、現在もその機能を果たしています。

雪室として利用していた当時は、雪の上にトバ(藁を簡単に編んだもの)をかけ、藁葺きの小屋を建てて食糧品の貯蔵や雪の切り出しを行っていました。

酒造を止めてからは、毎日ここの雪を住宅の雪穴に運び、冒頭のスイカや瓜、鮮魚などを冷やしていました。

冷蔵庫が普及するまでは鮮魚店にも貸し出し、地域の人たちの看

護用にも提供していました。

文化財としては、国重要文化財の住宅、蔵六棟、茶室二棟、敷地に続くものです。

元禄時代に酒造業を始め、明治三十三年に現在の松乃井酒造場の前身に事業譲渡するまで、敷地内の酒蔵で「稻荷山」銘の清酒を造っていました。

「実際に使わればいいけども、の…」文化財としてだけでなく、本来の雪穴としてまちづくりに生かせないかと、星名さんはアイデアを募っています。

見よ！このひとだかり!! 大人
気だったベイブレード大会



屋台村から、「売れ行きは？」
「絶好調！」



気分も眺めも最高のミニ
ス。やみつきになる子も：



観客を魅了した、幻想的な
「メグミ・大場の世界」



かわにし雪まつり

3月2日、3日第16回かわにし雪まつりが行われました。恒例の「ミニSL試乗会」「仮装10人11脚レース」に加え、新企画の「スノーアーステージ」「雪上ベイブレード大会」など、2日間で延べ4000人の観客が訪れました。今回も大成功で幕を閉じた雪まつりの一部をご紹介します。

▲気分は“モーニング娘。”

▼堂々とした振る舞いの「仙田子供樽太鼓」



▼大人顔負けのダンスを披露

▼アマチュア無線クラブのみなさん



▲橘小5年生の「2002年は馬の年だ!!」



▲最優秀賞に輝いた小白倉白進会の「夢とロマン」



▲優秀賞 木落三嶋会の「恩返し」

仮装十人十一脚レース

●大人の部より

- ①第一位「いい湯だな」
- ②仮装部門賞「中仙田百円会仮面ライダーV100」
- ③ハッスル部門賞「プリティーおひなさま」
- ④お笑い部門賞「ハイブリッド青年部」
- ⑤●子供の部より
「アユレディ・GOO!!」

①



②



③



④



⑤



プランの説明をする森口芙代さん(右)と森口雅浩さん(左)

(森口雅浩、森口芙代)さんの、当選プラン説明会がありました。

作品名は「ベリースプーン」で、中子大地の一角にブルーベリーやラズベリーなどが育つ公園を作り、地域の人たちの手で栽培からジャムの生産販売まで行おうというものです。

当日は、森口さんたちのほか、東京都青梅市でベリーの観光農園を経営する関塚さんご夫妻も駆けつけ、ベリーの持つ魅力や、農業、特産品、起業への可能性を多方面にわたって解説しました。

今後も、参加者を募ったり、事業を知ってもらうためのワークショップを開催していく予定です。

「ブルーベリー園」を作ろう！ 大地の芸術祭 公募作家が提案

一足早く春を満喫！

「わー、きれいー！」
三月二十二日、上野保育園で人形芝居「福丸座」(仁田/井島久志さん)による『二匹のかえる』のボランティア公演がありました。
二匹のかえるによる素朴な掛け合いが分かり易く、子どもたちも大喜び。春が訪れるシーンでは、毛虫から蝶へ成長する過程が美しく演出され、目を凝らして見ていた子供たちから、一斉に歓声が沸き上がりました。
春の訪れのように「ほんわか」あったかくなる井島さんの作品。もうすぐ完成する二作目が楽しみです。



子どもたちに人形芝居の説明をする井島久志さん



政野アナウンサーの軽妙な語り口にみんな聴き入りました

大相撲が やってきた

三月二十一日、総合センターで「大相撲講演川西場所」が開かれました。

これは、青年組織YAROUKAと(株)まちづくり川西が共催して実施したもので、大相撲の実況アナウンサーであるNHK新潟放送局の政野光伯氏を招いての講演会や、藁を使つての体験事業、一品持ち寄りの交流会などが行われました。

また、大相撲の各部屋の土俵の俵の多くが、白倉しめ縄生産組合(田中武組合長)で作られていることも、今回の催しの契機となりました。

政野氏の「貴乃花が怪我をおして優勝したときの秘話」に引き込まれた参加者は、続いて藁ぞうりやリースづくりを楽しんだあと、ずらり並んだ一品持ちよりの「こつつお」に舌鼓を打っていました。

人気です！「手づくり絵本」

川西中学校の3年生が絵本を作って南原保育園の園児たちに披露しました。

これは、幼児と直接触れ合うことを通して、子どもたちの心身の発達を理解しようとするを目的に、技術・家庭科の保育領域学習の一環として実施されたものです。

中学生たちは、最初は自分が作った絵本がはたして園児たちに受け入れられるかどうか不安そうでした。でも、クイズ形式での問いかけや、楽しいキャラクターが出るたびに歓声を上げる子どもたちに元気づけられ、次第に調子も上向いていきました。

そして、最後は生徒と園児が一体になって楽しんでいました。



子どもたちの反応の良さに、中学生たちも手応えを感じていたようです

「かわにし」ロゴマークができました！

川西町誕生45周年を記念して「かわにし」のロゴマークが作成されました。

デザインをしてくれたのは、当町山野田出身で東京で活躍中のカリグラファー(商業書道家)、平野壮弦(本名平野治人)さん。

今年開催されるサッカーワールドカップの公式エンブレム毛筆バージョンをデザインしたことで知られる平野さんは、昨年11月にオープンした千手温泉千年の湯のロゴマークも手がけました。

「アメリカ行きの仕事が入って」寸暇も惜しむほどの超過密スケジュールの中で、ふるさとのために数百枚を書き上げ、指で書いたものも含め、5点の作品を仕上げていただきました。

その中から、「親しみのもてるデザインの中に斬新



性、発展性が感じられ、躍動する地域をイメージ」させるこのロゴマークが選ばれました。

「かわにし」の「わ」は、町民の「和・輪」を、「し」は「信濃川・渋海川」をそれぞれイメージして表現されています。

このロゴマーク、今月号の広報の題字に早速使われましたが、今後、封筒やパンフレットなど町で発行する印刷物や看板等に続々登場する予定です。

圧巻！1,000人を越える ボランティア人口

総合センターのホールが満席になった総会



三月十五日、総合センターで川西町ボランティア連絡協議会の総会が開かれました。

会場には、約二〇〇人の参加者が詰めかけ、川西町のボランティア活動の活発さを象徴していました。現在、同協議会に加盟している団体は二五、登録者は一、二九人にのぼっており、近隣地域と比較して圧倒的に多い数となっています。

田口町長も出席した「川西町のボランティアの課題と展望」と題したパネルディスカッションでは、「町を誇りに思う」「活動に喜びがある」「担い手に男性が少ない」「後継者育成が課題」などといった意見が出され、終始熱気あふれる雰囲気包まれていました。

善意

(敬称略)

福祉に
小野塚ミツ (中央町)
一般に
吉楽 尚生 (中央町)

五万円
十万円

中 星 片 桑	美 流 紫 千	美 音 苑 尋	武 友 健 紀	伊 南 台
伊 友	友 紀	南 台	赤 谷	

戸籍の窓から

昇天—ごめい福を祈る

丸 水 登 田 押 滋 大 和	山 落 坂 村 木 野 野 田	栄 邦 智 子 ハ リ リ 一	子 雄 子 ツ ウ ヤ ウ	55 81 54 99 83 96 88 79	(重 (本 (道 (一 (義 (喜 (太	信 仁 大 鶴 元 野 倉 口	根 田 岩 吉 鶴 鶴 鶴 鶴
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--	--	--------------------------------------	--------------------------------------

うぶ声—おすこやかに

雛の灯に口紅赤く孫の客
みしみしと薄氷猫が踏み行けり
春雪や鉄骨錆し工場跡
頂きし彼岸の餅のまだ温くし
上町 高橋 願似
南朝を偲ぶ小径の露の臺
酒に名を貸して八海山ねむる
極楽に一番近き日向ぼこ
新町新田 若山 向山

かわい俳壇



高崎正風選

雪に置く足跡これは新聞屋
妻の言う話を聞きし寒さかな
烈風に春飛ばされてしまいいけり
霜条 星名 星光
東京へ明日は届かん雪大根
着ぶくれて長岡行のバスを待つ
犬の名の太陽花子年賀状
中屋敷 金子 鉄平
酒に名をつけたる越の山笑ふ
雪語るときには越後訛かな
練馬区 須藤 遊人
土手に萌ゆ土筆の丈のそれぞれに
水仙の芽が雪解を待ちきれず
山野田 中條 石平
語らいの輪を広げつつ春すずめ
願かけし方位は吉やお水取り
杉並区 根津 晴代
梅園の盛りの下の昼餉かな
つづらなる路の臺取る彼岸入り
八王子市 松浦 サク
入園のどの子も赤き頬をして
声あげてかげろう追える三輪車
野口 村越 由喜
初物のふきのとう食べ春を知る
合格の通知や子等に春の来し
霜条 蔵品ハツエ

春いよ、乙女心となりけり
よもぎ摘み春の香りを御仏に
田中 石澤 澄代
リハビリの百歩となりぬ日脚伸ぶ
春めくや小川の稚魚の影ありて
足立区 涌井ハル子
あたたかや干したる布団匂いよし
浅葱の黄色く伸びし雪間かな
小白倉 田中 優美
ふきのとう汁に浮かべし朝餉かな
彼岸荒れもて来し鉢の雪を掃く
山野田 藤田ひろ志
雪解風類につめたき川下り
旅立つ娘送りし駅の春寒し
岩瀬 登坂伊智子
泣き笑いて夫婦雛五十年
春一番老いたる吾れをゆさぶりて
印西市 小林 徳平
たわむれの如くに消えし春の雪
春雨や今日学校の離任式
小白倉 江口みゆき
うらうらと春めきし陽の上りけり
鶯の日和定まる声の張り
元町 田畑 吉治

休日救急医

4月28日 大坪医院
(十日町市四日町新田)
☎57-6100

〃 上村病院
(中里村田沢)
☎63-2111

29日 本町クリニック
(十日町市本町3)
☎50-1160

5月 3日 田中外科医院
(十日町市田中町本通)
☎52-2403

4日 庭野医院
(十日町市寿町4)
☎52-2711

5日 川西町国保診療所
(川西町高原田)
☎68-2034

6日 山口医院
(十日町市袋町中)
☎52-2174

〃 中条病院
(十日町市北原)
☎57-3018

12日 たかき医院
(十日町市土市第5)
☎58-2361

表紙の写真

千年の湯の周辺で、新しい地域
ビジネスを始める「千年の市」関
係者のみなさんです。

長年培った自慢の商品にさらに
磨きをかけたり、全く新しい分野
に挑戦したり、グループで楽しみ
ながら出店したりと、形はさまざ
まですが、みなさんの思いは共通
です、「賑わいの場をつくろう」と。

お寄せください!

あなたのまわりの「耳寄りな話」

「広報かわにし」では、みなさん
のまわりの話題を募集します。

近所で話題になっていること
や、日ごろ考えていること、詩作、
エッセイ、写真、イラスト何でも
結構です。可能な範囲で読者のみ
なさんのコーナーで紹介したいと
考えています。

封書でも、はがきでも、「お寄せ
くださいまちづくりの提言」のは
がきを利用していただいても結構
です。

「住所」「氏名」「電話番号」を
明記のうえ、どしどし〒948-
0192川西町役場総務課文書広報
係までお寄せください。



▲「空きカン」
2年生 川崎将幸さん



▲「勉強中」
3年生 小林儀樹さん



▲「いってきます」
3年生 登坂泰子さん



▲「ペンケース」
2年生 高橋直一さん



▲「じゃあね、また明日」
3年生 丸山由香里さん



◀【木版画（多色刷）2年生】

右上から時計周りに

- | | |
|----------|---------|
| 「友だち」 | 星名千恵さん |
| 「星のささやき」 | 稲田葉さん |
| 「魚」 | 星名拓さん |
| 「ゆり」 | 平野亜由実さん |
| 「いわな」 | 星名道憲さん |

（5月号は千手小学校です）

実はこれは、仙田体験交流館の雪室に雪を詰めているところ。米やそば、野菜などの貯蔵のほか、交流館の冷房にも利用される。量は九五〇㎡、平均的な小学校の教室の約七杯分にあたる。

星名家の雪穴は、約一〇〇㎡で酒蔵の温度調整、冷蔵、救急などの機能を三百年にわたって果たしてきた。雪エネルギーの利用が決して新奇なものでないことを物語っている。

今年策定される地域新エネルギービジョンに雪がどう位置づけられるか：期待したい。⑥



●いっしょに雪の●
タイヤドーザーで雪を寄せてロータリー除雪車で飛ばす。ああ、早春の排雪作業か。いや違う、ロータリーは建物の中に雪を飛ばしているが、はて：